

令和2年度 事業報告書

2020 LEAF



鹿児島県 奄美パーク

目次

第1	鹿児島県奄美パーク概要	1
第2	令和2年度の事業実績について	2
第3	奄美の郷企画事業	3
1	季節感（年中行事）を取り入れたイベント	3
(1)	ハーバリウム & マジックワークショップ	
(2)	ネリヤカナヤフェスタ	
(3)	奄美パーク夏まつり～シマジマ（喜界島・与論島）だより～	
(4)	第14回奄美パークわらベシマ唄大会	
(5)	フユウンメコンサート	
(6)	令和3年初春唄あしび	
(7)	奄美パーク春まつり～サンガツサンチ～	
(8)	あなたとつながるあまくま音ライン	
2	奄美の郷ライブステージ	12
(1)	宇検村・瀬戸内町 伝統文化の祭典	
(2)	奄美パークパフォーマンスバトル2021 WEBコンテスト	
3	奄美パーク文化講演会	14
(1)	富岡譲二氏「日本の災害医療の歴史と現在」	
(2)	外山雄大氏「薩摩剣士隼人夢を見るチカラ」	
4	わきゃステージ in パーク事業	16
(1)	ならびや歌謡ショー	
(2)	令和2年度民謡民舞奄美連合大会予選会	
(3)	第9回龍郷町キットハレ芸能祭	
5	その他イベント及び自主企画事業	19
(1)	第2回W.P.A. ウォーターパーティー！ in 奄美パーク	
(2)	第4回奄美パークハロウィンイベント	
(3)	第14回奄美パーク子どもクリスマス会	
(4)	奄美パーククイズラリー・ぱーくまを探せ！	

第4 田中一村記念美術館企画事業	24
1 奄美関連作家展及び招待作家展	24
(1) Before and After 旅するムサビ in 奄美	
(2) 大島紬パッチワークキルト展	
2 第10回田中一村記念スケッチコンクール作品展	26
3 第19回奄美を描く美術展	27
(1) 本展	
(2) 入選・入賞作品	
4 龍郷町立小・中学校図画工作・美術科学習発表展	34
5 創作体験教室ほか	35
(1) 夏休み子どもワークショップ 万華鏡をつくろう	
(2) 夏休み親子「草木染め体験」	
(3) 子ども美術館「バックヤードツアー&鑑賞会」	
(4) 創作体験教室 日本画講座「奄美を描こう」	
(5) 創作体験教室 人物画講座	
6 その他自主企画事業	40
(1) 一村キッズクラブ	
ア 清掃活動	
イ 慰霊祭	
ウ スケッチ活動	
エ 絵手紙を描こう	
オ 歩こう会	
(2) 田中一村記念美術館4コマ劇場	
第5 奄美パーク応援隊	46

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったイベント

- ・あまみっ子フェスタ
- ・奄美パーク新春寄席
- ・奄美の郷ライブステージ①～③
- ・文化の日イベント
- ・第67回県美展 奄美関連作家展
- ・第19回奄美を描く美術展 巡回展
- ・もっと知りたい田中一村鑑賞会

第1 鹿児島県奄美パーク概要

1 施設設置の目的

鹿児島県奄美パークは、奄美の美しい自然や多様な文化・歴史をわかりやすく紹介した総合展示ホール、奄美シアター及び人々の交流の場を提供するイベント広場からなる「奄美の郷」と、奄美の自然を描き、集大成させた孤高の日本画家「田中一村」の作品を紹介する「田中一村記念美術館」の二つの施設を中核とする奄美群島全体の新たな観光拠点施設として、奄美市笠利町節田の旧奄美空港跡地に建設された。

2 設置者 鹿児島県

3 開園年月日 平成13年9月30日

4 指定管理者 奄美群島広域事務組合

5 園長兼館長 宮崎緑（千葉商科大学国際教養学部教授・同学部長、元NHK「NC9」ニュースキャスター）

6 園地面積 約77,000㎡

7 総事業費 約76億円（開園時）

8 施設の概要

(1) 奄美の郷（延べ床面積約3,200㎡）

白い貝殻をイメージした外観。建物内の梁などは、琉球松の大断面集成材でソテツの葉をイメージした造形。

○ 総合展示ホール、奄美シアター（有料）

○ アイランドインフォメーション、イベント広場、レストラン、売店

※ 平成30年7月、奄美群島への国内外からの観光客の増加を見据え、展示内容の充実及び展示解説の外国語表示を内容とするリニューアルを実施

(2) 田中一村記念美術館（延べ床面積約2,500㎡）

奄美の海をイメージした池に3棟の高倉が浮かぶ設計。床はイタジイを使用。

○ 常設展示室、特別展示室（有料）

○ 企画展示室、ガイダンス室、図書資料室、喫茶・ミュージアムショップ

(3) 一村の杜（面積約7,000㎡、平成19年7月20日完成）

6つのスポットで構成されている遊歩道。田中一村の奄美作品に描かれている草木を植栽。

(4) その他の施設

多目的広場（約3,780㎡）、野外ステージ、展望台、駐車場（約240台）

9 観覧料金（ ）内は20名以上の団体料金（令和元年10月1日改定）

共通	大人630円（500円）	高・大学生420円（330円）	小・中学生310円（240円）
奄美の郷	大人310円（240円）	高・大学生220円（170円）	小・中学生150円（120円）
田中一村記念美術館	大人520円（410円）	高・大学生370円（290円）	小・中学生260円（200円）

10 休園日 毎月第1、第3水曜日

祝日の場合は翌日。ただし4/29～5/5、7/21～8/31、12/30～1/3は開園

11 開園時間 9:00～18:00（7月、8月は19:00まで）

12 入園者数 令和3年3月末現在 延べ2,569千人（令和2年度入館者数57千人）

13 組織 計12名（県職員4、市町村職員4、会計年度任用職員3、特別職非常勤職員1）

園長——次長（県）——総務課長（次長兼務）——担当3（県1、市町村1、会計任用（事務補助）1）

兼館長
（特別職非常勤）

——事業課長（県）

奄美の郷3（市町村2、会計任用（事業推進員）1）

田中一村記念美術館3（県1、市町村1、会計任用（事務補助）1）

第2 令和2年度の事業実績について

「奄美の郷」では、総合展示ホール、奄美シアター、アイランドインフォメーションにおいて奄美群島の自然、歴史、文化などの多彩な魅力を紹介し、イベント広場では島唄、伝統芸能などのイベントを定期的を開催しています。「田中一村記念美術館」では、常設展示のほか、企画展示室において奄美関連作家展、招待作家展、奄美を描く美術展などの作品展を定期的を開催しています。

令和2年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、9件のイベントが中止となるなど、入館者数が例年と比較し少ない状況となりました。

このような状況の中、新しい生活様式に合わせたイベントを開催するため、公式YouTubeアカウントを開設し、「奄美パーク夏まつり～シマジマ（喜界島・与論島）だより～」では与論島の出演者とZOOMで中継し、その模様をイベント広場の舞台と事前収録した動画により初めてオンライン配信を行ったほか、「第14回奄美パーク子どもクリスマス会」では抽選やパフォーマーによるオンライン配信、「パフォーマンスバトル2021～WEBコンテスト」では舞台発表ではなく、各出演者が撮影したパフォーマンス動画をYouTubeに掲載し視聴者によるオンライン投票、「あまくま音ライン」では奄美と各地をZOOMで中継し、その模様をYouTubeで配信するなど、オンラインを活用したイベントを展開しました。

また、オンライン配信以外にも公式YouTubeでは奄美パークで開催した各種イベントの模様を編集し配信したほか、「BEYOND THE LANDSCAPE」と題し、奄美群島各地のプロモーション映像を作成し配信しました。

田中一村記念美術館では、小中学生とその保護者を対象とした「子ども美術館バックヤードツアー&鑑賞会」や、全国の美術愛好家から作品を募集する「奄美を描く美術展」など、年間を通じて様々なイベントを開催しました。

また、一村キッズクラブを新設し、次世代の子どもたちに一村の思いや画業を伝える活動をスタートし、施設の利用促進はもとより文化芸術の振興にも資する取組を行いました。

奄美では、令和3年の世界自然遺産登録を見据えた取組が着実に進められており、今後更に交流人口の拡大が期待されています。

令和3年は奄美パークが平成13年9月のオープンから開園20周年を迎える節目の年に当たり、10月には奄美群島の各地から様々な伝統芸能等が集う20周年記念イベントを開催する予定です。これからも新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めながら、奄美群島全体の観光拠点施設として、また人々の交流の場所として、奄美群島への誘客を促進し、更なる情報発信と様々な事業を展開してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



奄美の郷



田中一村記念美術館

第3 奄美の郷企画事業

1 季節感（年中行事）を取り入れたイベント

(1) ハーバリウム & マジックワークショップ

ア 開催日時 令和2年7月25日（土）1回目 13:30～15:30, 2回目 15:00～16:00

イ 場所 奄美パーク 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 合計74名

エ 内容

今年度開催したハーバリウム&マジックワークショップは新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、参加人数を制限するため1度の参加者を50人以下とし、より多くの方に楽しんでいただくため2回開催した。

応募方法は今回初の試みとして、WEBフォーム上からの応募を採用した。また、奄美パーク内総合受付では紙媒体の申し込みも併用して受付を行い、申込多数のため予定よりも早く受付を締め切った。その後も、キャンセル待ちや参加申し込みの連絡がきたが、参加者が50人を超過するためお断りした。

ハーバリウムとは、瓶の中に花材（ドライフラワーなどの植物）を入れ、専用のオイルを流し入れて観賞する「植物標本」のことであり、ほとんどの参加者が親子で制作し、花の種類や配置などをいろんな角度から瓶を観察し、相談しながら取り組む姿が見られた。

当日は、篠原恵子先生を講師に迎え、ハーバリウムについての簡単な説明と、スクリーンに映し出す完成品のハーバリウムを見ながら作り方のコツなどが示され、参加者は各自で制作に取り掛かり、世界に一つだけの作品に仕上げていた。

意外にも子どもはすぐ完成し、一緒に参加した保護者の方が花材の配置や配色に悩んでいる姿が見られた。

完成した作品はどうするのかの問いに対して、「お母さんにあげる。」「台所に飾りたい。」など様々な回答があった。

また、同時開催のマジックワークショップでは、大道芸人のカイトさんによるミニテーブルショーをスクリーンに映し出すことで、近くに集まらなくても手元が見えることから、密を避けることに繋がった。マジックをいくつか披露しながら、「トランプさえあれば簡単にできるマジック」を参加者にレクチャーした。

ミニテーブルショーが始まると、参加者は終始マジックに見入り、時折「すごい!」「なんで?」などの声上がる様子が見られた。

ハーバリウム&マジックワークショップ

2020.07.25.sat

①13:30～14:30 ②15:00～16:00

ワークショップへのお申し込みは、奄美パーク公式ホームページまたはQRコードを読み取り、申込フォームから申し込みが、奄美パークで配布している申込書を記入後奄美パークへ御提出ください。ただし、定員20名に達した場合、募集を早期締め切る場合がございます。

ハーバリウムとは・・・

ハーバリウムとは「植物標本」のこと。最近では「ドライフラワー」や、「ドライフラワー」に加え、瓶に植物を入れ専用オイルで満たした観賞目的の製作されたもの「ハーバリウム」と呼ばれています。

マジックワークショップとは・・・

九州を中心に県外や海外でも活動されているパフォーマー「K@ito」によるマジックワークショップでは、自粛期間中にお家の中でも楽しめるようワークショップ参加者にマジックを伝授します。子どもから大人まで楽しめる時間ではないでしょうか。お子様のお申し込みお待ちしております。

奄美パーク 文化プログラム事業



(2) ネリヤカナヤフェスタ

ア 展示関係

- (ア) 開催期間 令和2年7月23日(木・祝日)～8月31日(月)
- (イ) 場 所 奄美パーク 奄美の郷 アイランドインフォメーション付近
- (ウ) 入場者数 7月:1,219名, 8月:3,739名, 合計:4,958名
- (エ) 内 容

今年は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、オープニングイベントを中止し、海に関する写真展及びワークショップのみの開催となった。

令和2年7月23日から8月31日までの期間で開催する「ネリヤカナヤフェスタ」の展示物として、「海の生き物写真展」と題し、奄美の海洋生物に関する写真展を行った。

展示は奄美大島瀬戸内町のダイビングショップ「アクアダイブコホロ」さんから御提供いただいた74点の写真をA3サイズの写真用紙に印刷し、アイランドインフォメーション一面に展示した。「アオウミガメ」や「クマノミ」等の馴染みのある生物から「アマミホシゾラフグのミステリーサークル」や「シンデレラウミウシの卵」といった珍しい写真など色鮮やかな海洋生物の写真が並んだ。

島内外からの来園者は、普段なかなか見ることができない海洋生物の写真に顔を近づけてじっくりと観賞する姿やご家族と写真について会話する姿が見られた。

ネリヤカナヤフェスタ 2020

海の生き物写真展

期間 令和2年7月23日(木・祝)～8月31日(月)
奄美の海に住む生き物達の写真展を開催します。
提供: アクアダイブコホロ

募集

バルーンを組み合わせて作ろう!
親子で作る海のバルーンアート教室

奄美パーク職員が海の生き物バルーンや人気バルーンアートの作り方を教えます!

日時 第1回 令和2年8月2日(日) 午後1時30分～
第2回 令和2年8月22日(土) 午後1時30分～

対象 小学生以上のお子さんと保護者

申込方法
下記のQRコードまたは奄美パークで配布する申込書からお申込みください。保護者の同伴が必須です。各回先着20組に達し次第終了。

鹿児島県奄美パーク 〒894-0504 奄美市笠利町節田1834
電話: 0997-55-2333 FAX: 0997-55-2612



イ 親子で作る海のバルーンアート教室

(ア) 開催期間 令和2年8月2日(日), 22日(土) 13:30 ~ 15:00

(イ) 場 所 奄美パーク 奄美の郷 屋内イベント広場

(ウ) 参加者数 8月2日: 14組 46名, 8月22日: 14組 34名

(エ) 内 容

ネリヤカナヤフェスタの一環で「夏休み親子手作り教室」を開催した。内容は、親子で楽しめるよう「海のバルーンアート教室」を実施した。両日とも定員20組の参加募集に対して、14組46名(8/2), 14組34名(8/22)の親子が集まった。

両日とも奄美パークの職員が講師を務め、各テーブルに材料と道具を配布し、バルーンの基礎である「犬」から作ってもらった。参加者は、全員初挑戦とのことで、膨らまし方や、結び方など手間取っている方が多く、ほとんどの子ども達が、保護者の手を借りて楽しそうに作り上げている中、ある小学校高学年の子は講師の言葉を理解し、自分の力で作っている姿も見られた。参加者の中には、バルーンが割れるのを怖がり、キャーキャーと声を出し騒いでいたが、割れる音に慣れてきたら、驚きながらも笑顔で作り続けている様子を見ることができた。

次に難易度が高い「タコ(蛸)」と「魚」に取り掛かった。

「タコ」は制作イメージを理解してもらうために、ステージ上に手順ごとに作成例を作り置きし、一つ一つ説明しながら講師が作って見せた。参加者はコツをつかむまで時間を要したが、慣れてきた方は2匹目まで作っている姿も見られた。

次の「魚」はかなり難しく、参加者の制作スピードにずれが生じたことから、講師とスタッフが各テーブルの補助に回った。参加者の中には事前に配布した説明書を見ながら、自分の力で作成していく姿も見られた。

「タコ」と「魚」を完成させた人から順番にフォトスポットで記念撮影を行った。また、ステージ上には奄美パークスタッフが「バルーンくぐり」を作成し、記念撮影が終わった子ども達に遊んでもらった。「バルーンくぐり」とは回っているバルーンの輪をくぐる遊びで、様子をうかがいながら慎重にくぐる子と、躊躇なくジャンプして輪をくぐる子と極端に分かれた。終了後は、「初めてでしたが、とても楽しかったです。」などの感想を得た。



(3) 奄美パーク夏まつり～シマジマ（喜界島・与論島）だより～

ア 開催日時 令和2年9月19日（土）13：30～14：45

イ 場 所 奄美パーク 奄美の郷 屋内イベント広場及びYouTubeライブ配信

ウ 入場者数 約30名（オンライン視聴者 常時約50名）

エ 内 容

毎年、奄美群島の各島々に焦点を当てる「奄美パーク夏まつり～シマジマだより～」。今年は喜界島から「喜界島うるまエイサー」、「川畑さおり with 栄忠則」、与論島より「舞弦鼓」、「川畑アキラ」と与論の音楽仲間たち」の合計12名が出演した。

新型コロナウイルス感染防止のため、与論島の演者からは来島自粛の申し出があり、オンラインで出演していただいた。喜界島の2団体は、予定どおり屋内イベント広場のステージに出演していただいた。

オープニングを飾ったのは「喜界島うるまエイサー」の3名で、喜納昌吉（きなしょうきち）さんの曲や民謡を交え4曲続けて披露された。大きな動きで力強く叩く太鼓の音が、イベント広場に鳴り響き、その迫力に会場からは歓声と拍手が巻き起こった。

続いて、オンラインで与論島より「舞弦鼓」が出演。代表者の説明の後、過去の奄美パークでの演舞を含めダイジェストの映像で会場を沸かせた。

続いて、「川畑アキラ」さんが、与論の音楽仲間たちとの演奏で会場と配信視聴者を楽しませた。6人編成での演奏がアキラさんの歌を盛り立て、パワフルなパフォーマンスを見せてくれた。

プログラム最後は喜界島より「川畑さおり」さんが、喜界や奄美の民謡をパワフルな唄声で会場に響かせた。3曲目からチヂン奏者の栄忠則さんと、うるまエイサーのメンバーも加入し、ステージに色を添えた。最後の曲は六調を演奏し観客も一緒になって踊り始めた。

会場内では、喜界島観光物産協会によるゴマを使ったお菓子やドレッシング、醤油などの物産展が行われ、「うた・踊り・食」で喜界島と与論島の多彩な魅力を感じられるイベントとなった。



(4) 第14回奄美パークわらベシマ唄大会

ア 開催日時 令和2年11月3日(火・祝) 9:30～15:15

イ 場所 奄美パーク 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約640名

エ 内容

本大会は小学校低学年の部に21名、小学校高学年の部に28名、中学生の部に11名の総勢60名で、昨年よりも6名多い参加となった。奄美市や龍郷町、瀬戸内町、宇検村と多くの地域から御参加いただき、姉妹での参加や小学1年生で大会初参加となる子どもが多く見られた。そのほか、令和元年度各部門の優勝者である大山仁奈さん、千田真帆さん、鈴木侑さんがゲスト出演した。

藤山審査委員長より「小学1年生の子が優勝するなど将来が楽しみな大会になった」との講評があり、また「自分に合った高さを見つけること。島唄を好きになるともっとうまくなる」と出場者へのアドバイスがあった。各部門の各賞受賞者は以下のとおりである。

○ 小学生低学年部門

優勝 原 美波 (朝日小学校1年)

準優勝 新城 琉花 (奄美小学校3年)

3位 東原 光虹 (古仁屋小学校1年)

○ 小学生高学年部門

優勝 奥 野乃佳 (朝日小学校5年)

準優勝 藤原 梨月香 (名柄小学校6年)

3位 鈴木 明 (宇宿小学校6年)

○ 中学生部門

優勝 時岡 優里菜 (名瀬中学校3年)

準優勝 朝岡 歩紀花 (赤木名中学校2年)

3位 萩原 かほ (芦花部中学校3年)



(5) フュウンメコンサート

ア 開催日時 令和2年12月12日(土) 13:30～15:30

イ 場 所 奄美パーク 奄美の郷 屋内イベント広場及びYouTubeライブ配信

ウ 入場者数 約180名, YouTubeライブ配信 延べ視聴者353名

エ 内 容

今年のフュウンメコンサートは里朋樹さん(囃子:時岡優里菜さん), 朝光介さん, 東郷晶子さん, ミヤタトモコ with 渥美幸裕さんが出演した。また, イベントの様様をYouTube公式チャンネルで生放送し, コメントをした方の中から抽選でサイン入りポスターが当たるキャンペーンを開催した。

トップバッターは, 瀬戸内町出身の里朋樹さんと今年の第14回わらべシマ唄大会中学生の部で優勝した時岡優里菜さんによるシマ唄が披露された。里さんによる軽妙なトークで会場を笑いで盛り上げながら, ワイド節などのシマ唄を披露した。

続いて, シンガーソングライターの東郷晶子さんが出演し, ピアノの弾き語りや朝光介さんとのコラボレーションなどを披露した。東郷さんの透き通った声で会場を魅了した。

続いて, 朝光介さんが出演し, ギターによるオリジナルソングやヒューマンビートボックスミニ講座を披露した。様々なヒューマンビートボックスの技が披露されると会場からは驚きや笑いの声が上がっていた。

最後に, 奄美大島在住のジャズシンガーのミヤタトモコさんとギタリストの渥美幸裕さんによるオリジナル楽曲や里朋樹さんとの初コラボによるシマ唄「よいすら節」が披露されると, 来場者は本格的なジャズ音楽に耳を傾けていた。



(6) 令和3年初春唄あしび

ア 開催日時 令和3年1月17日(日) 13:30～15:00

イ 場 所 奄美パーク 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約110名

エ 内 容

奄美パーク新年初の唄イベント、令和3年初春唄あしびはアマンディー太鼓、島んちゅ会、楠田莉子さんが出演した。

オープニングは節田小の児童11名によるアマンディー太鼓で幕を開けた。アマンディー太鼓は高学年の子どもたちが低学年の子ども達に教えながら伝えられてきた、和太鼓と奄美の太鼓「チデン」による節田小独自の六調太鼓。コロナ禍で久しぶりの披露となる中、息の合ったあざやかなバチさばきで会場を魅了していた。

続いて、島んちゅ会の福山幸司さんと平久美さんによるシマ唄が披露された。平久美さんから長朝花節や徳之島ちゅっきやり節などの解説が行われると、会場ではシマ唄に込められた意味にうなずく姿も見られた。

続いて、楠田莉子さんによる弾き語りが披露された。笠利町出身の楠田さんも参加していたというアマンディー太鼓のエピソードやコロナ禍の中で作詞作曲した曲への思いを紹介しながら、透き通った力強い歌声で「魔女のレシピ」などオリジナルソングを披露した。

最後は島んちゅ会による「だれやめ節」など盛り上がるシマ唄や「島のブルース」などの歌謡曲が披露され、会場からは島んちゅ会メンバーによるチデンや踊りに合わせて手拍子する姿が見られた。最後は異なる3つの六調が披露されると、会場からも踊りに加わるにぎやかなフィナーレとなった。

令和3年
初春唄あしび
奄美パーク新年初の唄イベントを開催
入場無料
令和3年1月17日(日) 13:30~15:10
場所 奄美パーク 屋内イベント広場
※マスク着用・手指消毒・検温・連絡先の記入に御協力ください。
唄あしびとは
座の人々が次々と唄を出し合い、掛け合いながら唄うこと。即興で歌詞を作ること。
出演
アマンディー太鼓
島んちゅ会
サモーン&ガーリック
楠田莉子
お詫
イベント開催中に発生した新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、本イベントは中止となります。ご了承ください。



(7) 奄美パーク春まつり～サンガツサンチ～

ア 開催日時 令和3年3月7日(日) 13:30～15:30
イ 場 所 奄美パーク 屋内イベント広場及びYouTubeライブ配信
ウ 入場者数 約300名, YouTubeライブ配信 延べ視聴者516名
エ 内 容

旧暦のサンガツサンチの桃の節句にちなんで女性をメインとしたイベントを開催した。シマ唄とポップスを女性ならではの雰囲気であまり、華やかさを演出し来場者を魅了した。

司会者の黒瀬美樹さんによるアナウンスで幕を開けた。

トップバッターは、沖永良部島から前田博美さんが「いちきや節」「ナガクマ節」「さとうよ節」「えらぶゆりの花」「作田米・稲摺節」を披露した。

沖永良部島の三味線は弦の太さや弾き方が奄美大島とは違い、沖縄琉球に似た音色を奏でていた。会場のお客さんも普段とは違う音色に聞き入っている様子であった。

続いては、喜界島から川畑さおりさんがシマ唄「朝花節」「塩道長浜節」「喜界やよい島」の3曲に加え、オリジナル曲の「一つ一つ」「故郷の空」を歌い上げた。

3組目は、喜界島出身でシンガーソングライターのAkiko Togoさんによるオリジナルソング「城ク坂」「Sunshine」「Falling in Love again」「月の銀貨」「Beautiful Smile」の5曲を、小柄で華奢な見た目とは裏腹に力強い声量で歌い上げ、会場を魅了した。

今回のステージのラストを飾るのは、奄美大島出身の唄者である里アンナさん。「長朝花節」から始まり、「いきゅんにゃ加那節」「豊年節」を唄い、アカペラで「西郷どんメインテーマ」を熱唱した。高音の透き通るような美声に会場からは大きな拍手が沸き起こっていた。

里アンナさんの5曲が終わると、出演者が全員ステージに上がり、奄美大島ならではの「六調」でにぎやかに締めくくった。



(8) あなたとつなぐあまくま音ライン

ア 開催日時 令和3年3月14日(日) 13:30～15:30

イ 場所 奄美の郷屋内イベント広場及び奄美パーク公式YouTubeチャンネル

ウ 入場者数 約20人, YouTubeライブ配信 延べ視聴者数 約380人

エ 内容

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となった新春寄席に替わるイベントとして、出演者全員がオンラインによる出演で、シマ唄、トークライブ等の内容で「あなたとつなぐ あまくま音ライン」を開催した。同時にYouTubeライブ配信を行った。

「あまくま」とは、奄美の方言で「あちらこちら」という意味で、全国各地をオンラインで結び、ミュージシャンと地域住民の交流及び観光客の集客を図るために「あまくま音(オン)ライン」とした。

出演者は、「IMALU」さん、「サーモン&ガーリック with アニョ」、「西和美&前山真吾」さん、「蛇味線ロックバンド ティダ」の皆さんであった。

トークライブは、視聴者参加型とし、事前に奄美パークで募集した質問を司会進行役の、あまみFMパーソナリティー渡陽子さんが「IMALU」さんへ投げかけて、答えていただくという内容で前半・後半の2部構成で進めた。質問内容は、「奄美へ来た時に星を見ることができましたか?」「仕事をするとときに心がけていることは何ですか?」「毎日欠かさず行っていることはありますか?」など多数寄せられた。

会場からは、トークやライブに笑いや手拍子が見られ、楽しんでいる姿が見られた。



2 奄美の郷ライブステージ

(1) 宇検村・瀬戸内町 伝統文化の祭典

ア 開催日時 令和2年11月15日(日) 13:30～15:30

イ 場 所 奄美パーク 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 420名

エ 内 容

毎年、奄美大島の各市町村の伝統文化に焦点を当てる今年度のライブステージでは、宇検村と瀬戸内町に協力をいただいた。出演は、宇検村から「湯湾八月踊り保存会」、「村野巳代治さん」、「藤原梨月香さん」、「田検とどろき会」、瀬戸内町からは「里朋樹さん」、「徳原大和さん」、「安田瑠衣さん」、「興花佳さん」の合計8団体が出演した。

まず初めに、事前収録していた宮崎緑園長による挨拶を大型スクリーンに映し出し、「新型コロナ感染防止対策を行いつつも、やっと通常通りの規模でイベントが開催できることをうれしく思う。また、今回御協力いただいた宇検村・瀬戸内町の皆様に感謝します。」と出演者と来場者へメッセージを送った。

オープニングを飾ったのは瀬戸内町の興花佳さん、安田瑠衣さんの2名で、「黒だんど節」、「むちゃ加那節」、「よいすら節」を3曲続けて披露した。

続いて、里朋樹さん、徳原大和さんの2名で「朝花節」など、8曲を披露した。8曲目の「ワイド節」では、来場者へ唄に合わせて踊りましょう！と呼びかけ、手拍子や、中には立ちあがって踊る姿も見られた。瀬戸内町の抽選会では里朋樹さんの進行により、安田瑠衣さんにじゃんけんで勝った人(20名限り)にオリジナルトートバッグ入り瀬戸内町詰合せセットが提供された。

その後、会場は盛り上がりをもせたまま宇検村の湯湾八月踊り保存会の披露へと移った。

来場者の中には舞台下で踊りだす姿も見られ楽しんでいる様子であった。宇検村のPRでは宇検村役場企画観光課職員が駆けつけ、宇検村イメージキャラクターの「うーけん君」と共に特産品詰合せセットの抽選会を行った。

うーけん君との抽選会が大いに盛り上がった中、宇検村教育長である村野巳代治さんと藤原梨月香さんの島唄が始まると、来場者は皆聞き入っている様子が見られた。

また、今回は田検とどろき会の皆さんによる「送り節」が披露された。「送り節」とは、集落を離れる方を見送るときにだけ唄われ、集落前の県道沿いに見送りする人が集う中、女性だけが唄い継いでいる田検集落の伝統である。

ステージの最後は、宇検村・瀬戸内町の出演者が一緒になって六調を唄い踊り、会場からは指笛と一緒に踊る人の姿が見られ、「うた・踊り」で宇検村と瀬戸内町の多彩な魅力を感じられるイベントとなった。



(2) 奄美パークパフォーマンスバトル 2021 WEB コンテスト

ア 開催日時 令和3年2月21日(日) 15:00～3月6日(土) 15:30

イ 場 所 奄美パーク公式YouTubeチャンネル

ウ 視聴回数 約4,000回

エ 内 容

パフォーマーの皆様に日頃の練習成果を発表する機会を提供するとともに幅広い年代の方々にパフォーマンスを楽しんでいただくことを目的に今年で8回目となる「奄美パークパフォーマンスバトル 2021」を開催した。

緊急事態宣言が発出された地域もあり、会場での開催を中止し「WEB コンテスト」としてオンライン上で開催したところ、今回は13団体、約82名が出場した。

出演者の投稿動画を、奄美パーク公式YouTubeチャンネルに投稿し、投票期間内における視聴者からの『いいね(高評価)』と出場者同士による投票の結果、優勝「笠利やちゃ坊相撲クラブ」、準優勝「アヌエヌエ喜界フラ」、第3位「笠利体操クラブ」に決定した。

優勝を獲得した「笠利やちゃ坊相撲クラブ」は“笠利小学校で相撲の練習をしています、練習の成果を発揮する大会も無くなった中、相撲の基本動作等を音楽に合わせて披露しますので楽しんでみてください”とコメントを寄せた。相撲とダンスという斬新な発想の中に、子ども達の全力で踊っている姿に癒され、真剣に相撲を取る姿に感動したというコメントもあり、視聴回数も1,805回と一番多かった。

準優勝を獲得した「アヌエヌエ喜界フラ」は、“フラダンス教室の仲間で結成された仲良しダンスグループで、コロナウイルスの終息と、来年は奄美パークで踊れますように”とコメントを寄せた。喜界島の満開に咲く桜に囲まれた中で優雅に踊る姿は、一足早い春を感じさせる心地よいパフォーマンスとして楽しむことができた。

第3位を獲得した「笠利体操クラブ」は“4歳児から小学校5年生までが所属しており、毎週月曜日に、笠利小学校体育館で楽しく練習しています。結成後3ヵ月のため、体操を始めたばかりの子どもも多く失敗もあるかもしれませんが、難しい技にも挑戦しますのでご声援よろしくお願いします”とコメントを寄せた。それぞれが楽しんで体を動かしていて、会場となる体育館を大きく使い、見ている側をドキドキさせる大技や笑わせたりするパフォーマンスに心が和んだ。

結果発表の動画配信において、昨年度優勝の『KILIG(キリグ)』が、特別ゲストとして参加し、昨年の映像と、自分達の現況とパフォーマンスバトルへの想いをコメントとして寄せていただいた。

結果発表の最後に花を添えたのは、けん玉パフォーマー『ZOOMADANKE(ずーまだんけ)』であった。世界中で活躍するけん玉パフォーマーの二人が、本来なら奄美パークに出演したかったという思いと、次回こそは奄美パーク出演希望の思いと、「けん玉を共にできることを夢に、頑張っていきましょう」とコメントした。動画内では、けん玉の遊び方や、応用編をパフォーマンスとして披露していただいた。



3 奄美パーク文化講演会

(1) 富岡譲二氏「日本の災害医療の歴史と現在」

ア 開催日時 令和2年10月11日(日) 13:30～15:00

イ 場 所 奄美パーク 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約50名

エ 内 容

鹿児島市の社会医療法人緑泉会米盛病院副院長の富岡譲二氏が「日本の災害医療の歴史と現在」と題して、新型コロナウイルスにおける県の対応、災害医療、DMATの活動などについて解説。現在もなお鹿児島県庁内で新型コロナウイルス感染者の受け入れ調整を行っていることから、オンラインによるリモートでの講演を行った。講演では与論島での新型コロナウイルスのクラスター発生について、町と県、医療機関の対応などを分析し、接触者の早期把握、幅広いPCR検査の実施、来島自粛、外出自粛の徹底などが効果があったとし、「50人規模としては短期間で収束した。離島という特性で港湾、空港での水際対策が効果があった。」と評価した。

また、三密を避け、マスク着用及び手指消毒など基礎的なことを継続し続けることで感染を避けながら生活をしていく時代であるとも語った。

続いての災害医療では、奄美豪雨災害から今年がちょうど10年にあたるため、災害医療の観点から、阪神淡路大震災時の対応と東日本大震災時の対応の違いの理由などを振り返りながら講演を行った。阪神淡路大震災や東日本大震災について、DMAT(Disaster Medical Assistance Team:災害派遣医療チーム)の役割や体験談、限られた資源でどうやって多くの人の治療を行い命を救うか、また災害時には「自分の命は自分で守る、一人で逃げる」ということが重要であると語った。

会場には奄美大島南部から来場された方や、熱心にメモを取りながら講演を視聴している姿などがみられ、講演の最後に会場に来ていた男性から「離島で災害が起きた場合、奄美大島にもDMATのようなチームは存在するのか」などの質問に対して、「奄美大島でも鹿児島県立大島病院にDMATチームは2～3チームほどある。人数にすると十数名である。まずは県内、そして県外から現場へ駆けつける体制をとっているため、自助・共助という体制は常に準備をしておくことが大事。」と話した。



社会医療法人緑泉会
米盛病院副院長
富岡 譲二 先生

- 日本救急医学会救急科専門医・指導医・評議員
- 日本臨床救急医学会理事
- 日本中毒学会理事
- 日本外傷学会外傷専門医・評議員
- 社会医学系専門医協会専門医・指導医
- 一般社団法人日本災害医学会認定災害医療上級ロジスティクス専門家
- 日本DMAT 医員 (インストラクター・統括DMAT資格有)
- 鹿児島県災害医療コーディネーター

※新型コロナウイルス感染拡大防止対策に御協力をお願いいたします。

<DMATとは>
災害派遣医療チーム(Disaster Medical Assistance Team)の略称として「DMAT(チーム)」と呼ばれ、厚生労働省により、日本DMATが平成17年4月に発足。現在では、地震災害だけでなく、東日本大震災以降は、被災地での医療支援や、避難所運営、被災者のケアなど、被災地での多岐にわたる支援を行っています。

<お問合せ先>
鹿児島県奄美市笠利町南田 1834
TEL: 0997-55-2333 FAX: 0997-55-2613

日本の災害医療の歴史と現在

開催日 | 2020年10月11日(日)

場 所 | 奄美の郷 屋内イベント広場

時 間 | 開演 13:30 ~

入場料 | 無料



(2) 外山雄大氏「薩摩剣士隼人夢を見るチカラ」

ア 開催日時 令和2年11月29日(日) 14:00～16:00

イ 場 所 奄美パーク 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約800名

エ 内 容

鹿児島県のローカルヒーローである「薩摩剣士隼人」の原作者であり制作総監督の「外山雄大氏」が、「薩摩剣士隼人夢を見るチカラ」と題して、薩摩剣士隼人が誕生するまでの過程や、自身の活動についてスライドを使用しながら語った。

外山雄大氏は幼少の頃からヒーローものに憧れ、小学生の頃からテレビ放送が始まったスーパー戦隊シリーズを、今まで1話も見逃すことなく45年間チェックしている。ヒーローの中の人になりたいのではなく、作る側になりたいという思いが強く、中学2年生の頃から自身で着ぐるみを自作し、中学3年生ではヒーローチームを結成するなど、当時住んでいた団地や、評判を聞きつけた隣町などからヒーローショーの依頼が来ていたと語った。

その後、占い師をしていたことや、探検隊を結成し「ツチノコ」や鹿児島県指宿市にある池田湖の「イッシー」などを探していたことから、ローカルテレビの「ドォーモ」やテレビ朝日などにも度々出演していたが、「ツチノコ」や「イッシー」はいないという結論に至り、探検隊を解散した。

現代の子ども・若者は、伝統芸能や郷土史、偉人達の思想や暮らしの知恵など鹿児島に受け継がれてきた素晴らしいものに触れる機会が少なくと感じ、鹿児島の観光地を始め、食や文化について「どうしたら県内外の人に鹿児島の良さを伝えられるのか」ということを考え始め、2010年に薩摩剣士隼人を誕生させた。

鹿児島には黒豚、黒マグロ、黒焼酎など「黒文化」があることから、薩摩剣士隼人は黒い衣装に決まり、悪者を倒すのではなく剣を交えることで分かり合い、決して相手の体に剣を当てることはしないという事をモットーにしていると語った。

現在では、薩摩剣士隼人のテレビ放送に加え、新聞への4コマ漫画の掲載、鹿児島純心女子短期大学との包括業務協定による薩摩剣士隼人の英訳版の放送など、鹿児島県だけにとどまらず、世界にも薩摩剣士隼人を広める活動を行っていると言った。

講演後は、「薩摩剣士隼人」「ツンツン」「ヤッセンボー」「コンコン」の4キャラクターによるショーと撮影会を行った。

会場からは、キャラクターへの歓声や薩摩剣士隼人らと一緒に撮影できるということもあり、最後まで大盛り上がりで幕を閉じた。

奄美パーク 文化講演会
2020年11月29日(日)
14:00～ 【入場無料】
※薩摩剣士隼人のミニショー、撮影会も開催するよ！

「薩摩剣士隼人 夢を見るチカラ」
講師は、薩摩剣士隼人の原作者
兼 制作総監督の
「外山雄大氏」

あまみこ
奄美の子どんたつに
おがなつことを
の
楽しんでしちよつど！
※奄美の子とあそびに会えるのをの楽しみにしてよ！

■撮影用の機材（カメラやスマホ等）は御持参ください。
■新型コロナウイルス感染防止対策に御協力ください。
■当日は公式YouTube 庵の庵を付けています。映り込むことが
ございますが御了承ください。

<お問合せ先>
鹿児島県奄美パーク 鹿児島県奄美市笠利町節田 1834
TEL : 0997-55-2333 FAX : 0997-55-2613



4 わきゃステージ in パーク事業

(1) ならびや歌謡ショー

ア 開催日時 令和2年10月4日（日）14:00～16:00

イ 場 所 奄美パーク 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約40名

エ 内 容

わきゃステージ in パーク「ならびや歌謡ショー」は、ならびや歌謡グループ代表の和田孝之さんがコロナ禍で島の様々な文化イベントが中止となる中、島唄や歌謡曲、踊りを披露する機会を作りたいと企画した。

国のイベント制限の緩和に伴い、本イベントから来場者に対する検温の実施と連絡先等の収集を開始した上で、人数制限を解除した。

イベントでは松崎博文さんと松崎ヤス子さん、山元俊治さんによるシマ唄や田中博樹さんと島袋誠也さんによるフォークソング、ベッチェ生本さん、作まゆみさん、平紀久美さん、和田孝之さんによる歌謡ショーが披露された。

会場からは笑い声や拍手が沸き起こり、来場者は久々のイベントをなごやかに楽しんでいた。



(2) 令和2年度民謡民舞奄美連合大会予選会

ア 開催日時 令和2年11月21日(土) 12:00～16:40

イ 場 所 奄美パーク 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約170名

エ 内 容

公益財団法人日本民謡協会に加盟している奄美群島内の各支部から選出された唄者62名が、全国大会へ向けて自慢の歌声を競った。本大会は7部門で民謡民舞全国大会の出場権をかけた優勝者を決定した後、優勝者のみ出場する協会賞争奪戦で全国大会の「内閣総理大臣賞争奪戦」出場者を決定する。

大会が始まると出演者はもちろん審査員も緊張の面持ちであったが、昨年度の記録保持者や奄美連合委員のゲスト出演者によるシマ唄が披露されると会場からは拍手や指笛が沸き起こっていた。

成績発表後は、榎本秀水審査委員長による講評が行われ、腹式呼吸や声の高さなどのアドバイスをを行った。

大会終了前には出演者や関係者らが一緒になって六調を踊り、にぎやかな締めくくりとなった。

最優秀賞及び各部門の優勝者は次のとおり(敬称略)

【協会賞争奪戦 最優秀賞】前山真吾 【青年部】辻美里 【成年部】前山真吾 【壮年部】茂木幸生
【中年部】本田サユミ 【高年一部】平田久代 【高年二部】嘉川敏子 【高年三部】日置幸男



(3) 第9回龍郷町キットハレ芸能祭

ア 開催日時 令和3年3月21日(日) 13:00～15:30

イ 場 所 奄美パーク 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 入場者数 約300名

エ 内 容

龍郷町懐メロ同好会主催による第9回キットハレ芸能祭が開催され、全30曲の楽曲をバンドによる生演奏で披露した。

第1部は総勢14名の歌手全員によるオープニング「青い山脈」でスタート。全15曲の昭和歌謡を熱唱した。

第2部では紫乃華舞踊教室による舞踊が披露された。島の演歌歌手である満政代さんの楽曲「夢つむぎ」に合わせ、大島紬で着飾った煌びやかな踊りのほか、楽曲「いごっそ魂」に合わせて力強い男舞が披露され会場を魅了した。

続いて、フラカオスタジオによるフラダンスが披露された。大人と子供の男性ダンサーチームによる力強いフラダンスや女性による華やかなフラダンス、合わせて3曲が披露され、会場に笑顔と元気を届けていた。

第3部は「東京アンナ」、「島唄メドレー」の演奏でスタートし、第1部に引き続き、昭和歌謡が披露された。会場からは個性豊かな衣装や美しい衣装に身にまとった歌手の歌や踊りに拍手をする姿や笑い声が聞こえ、終始にぎやかなイベントとなった。



5 その他イベント及び自主企画事業

(1) 第2回 W.P.A. ウォーターパーティー！ in 奄美パーク

ア 開催日時 令和2年8月9日（日）10：30～13：00

イ 場 所 奄美パーク 屋外多目的広場

ウ 入場者数 約100名

エ 内 容

昨年度から新イベントとして企画した、水鉄砲サバイバルゲームの第二弾を開催した。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、昨年の1チーム8人制から4人制に変更し、チーム数を18から16に制限して募集を行った。また、チーム編成を事前申込に変更するなどの感染対策を実施した。大会には上限である16チームの申込があった。

試合はトーナメント方式を採用し、A、B、C、Dの4つのグループに分けて予選、敗者復活戦、決勝トーナメントを行った。当日の受付は、密接を避けるため事前に組み合わせを事務局で決定し、資料の配布のみとした。

試合はAB及びCDコートの2か所に分かれて進行し、審判が試合直前に金魚すくい等に使用するポイとビニールひもを各チームに配布。各チームは各自で頭の正面にポイを固定し、試合開始に揃えた。

「夏だ！水だ！パーティーだ！」の掛け声を合図に試合をスタートし、2分間のチーム対抗戦の打ち合いで、ポイを多く破いた方を勝者とした。台風の影響で強風が吹く中、大人も子どもも本気になって狙いを定め、水をかけ合いながら家族や仲間同士の絆を深め、楽しく試合をしている姿が見られた。

また、審判が桶や水鉄砲、ホースで水をかけ、参加者が水まみれとなるように試合を盛り上げた。

試合終了後は密集を避けるため、全員での記念撮影を断念し、試合がすべて終了したチームごとに記念撮影と参加賞、賞状の贈呈を行った。

優勝チーム、準優勝チーム、3位チームのほか参加賞を贈呈した。賞品内容は次のとおり。優勝：奄美特産品セット（大）、準優勝：奄美特産品セット（小）、3位：奄美特産品セット（小）、参加賞：光るうちわ・花火

第2回 W.P.A. in 奄美パーク
ウォーターパーティー！ in 奄美パーク

イベント詳細
水鉄砲で相手の頭に装着したポイを狙い、ポイを破いた数で勝敗が決定する水鉄砲バトルを開催します！（水鉄砲の持込可）
開催日時 令和2年8月9日（日） 午前10時30分開場
※小雨決行。雨天の場合は8月10日（月・祝）に延期
開催場所 奄美パーク屋外多目的広場
参加対象 年齢制限なし
必要な物 濡れてもいい服・着替え・タオル・暑さ対策用品

申込方法
必要事項を下記QRコード先で入力または奄美パークで配布する申込書を提出してください。1チーム4名で参加可能となりますが、小学生以下の子どもの1名以上となるようにしてください。
※先着16チームまで。

鹿児島県奄美パーク
電話 0997-55-2333 Fax 0997-55-2612



(2) 第4回 奄美パークハロウィンイベント

ア 開催日時 令和2年10月24日(土)

- | | |
|--------------------|------------------------------|
| (ア) Trick or Treat | 10:00 ~ 16:00 |
| (イ) ワークショップ | 10:00 ~ 11:30, 13:30 ~ 16:00 |
| (ウ) フォトブースで写真撮影 | 10:00 ~ 11:30, 13:30 ~ 16:00 |
| (エ) 落とさず運べるかな? | 10:00 ~ 11:30, 13:30 ~ 16:00 |
| (オ) ハロウィンシールラリー | 10:00 ~ 16:00 |
| (カ) 奄美パーククイズラリー | 10:00 ~ 16:00 |

イ 場 所 奄美の郷 田中一村記念美術館

ウ 入場者数 約 500 名

エ 内 容

毎年好評をいただいている「奄美パークハロウィンイベント」は今年で4度目となった。

当日は、イベント開始時刻とともに多くの親子が詰めかけ、賑やかなスタートとなった。

ハロウィンらしさを体感してもらうため、今年は「ワークショップ」でオリジナルの「モンスターシール」を作製し、お面のように付け、少しでも仮装を楽しんでもらえるよう工夫した。また、今回は奄美看護福祉専門学校生が仮装してきてくれたこともあり、より華やかで賑やかなイベントとなった。

また、「落とさず運べるかな?」では、古民家をお化け屋敷風に照明を薄暗くし、骸骨やお化けのマスクなどで飾り付けることでワクワクドキドキ感を演出した。

屋外では4店舗の移動販売車があり、来場者は屋内・屋外ともに楽しんでいる姿が見られた。各ブースそれぞれが賑やかで、出店者や来場者の楽しんでいる様子が見られ、園内はハロウィンイベントに相応しい賑やかな1日となった。



(3) 第14回奄美パーク子どもクリスマス会

ア 開催日時 令和2年12月20日(日) パフォーマンス 13:30～15:00

令和2年12月24日(木) 抽選発表午後8時

イ 場所 奄美パーク 屋内イベント広場 YouTubeライブ配信

ウ 入場者数 YouTube配信 最大視聴者数 224名

オンラインクイズ 124名

会場観覧者数 約180名

エ 内容

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、従来のイベント形式からYouTubeライブ配信に変更し、屋内イベント広場での視聴は動画視聴環境のない方のみの観覧とした。

また、瀬戸内町で新型コロナウイルス感染者が発生したことで、同町内での郵便配達が遅れており、一部地域で抽選券が配達されていないことが判明したため、急遽予定を変更し、12月24日に抽選会を行い、結果はホームページ上で発表することとした。

12月20日のイベント当日は午後1時ごろから少しずつ会場が埋まりだし、約180人がイベントを楽しんだ。ライブ配信では、常時50人前後が視聴しており、最大視聴者数は224人を記録した。

抽選会参加に必要な二次元バーコードによる登録が必要なことを知らない視聴者のために、屋外にテントを設置し個別に対応するなど、混乱が生じないように会場内の様子を見ながら約10分遅れでイベントを開催した。

最初のパフォーマンスは、鹿児島県出身のパフォーマー、カイトさんであった。昨年に引き続き大盛り上がりのショーを披露し、2本のロープを使ったパフォーマンスでは、簡単なパフォーマンスと思わせながら、実は驚きの結果に会場の子供たちは「えー!」と声を上げていた。メタルカップを使ったパフォーマンスでは、ステージを動き回りながら投げたカップを連続でカップインするというパフォーマンスを見せてくれた。最後の水晶玉パフォーマンスは仮面を被り、神秘的な雰囲気となった。美しい水晶玉が手のひらで浮きあがる不思議な光景に子供たちは「すごい!」などと驚いた様子で釘付けになっていた。

興奮冷めやらぬ中、続いてのパフォーマンスは、大阪府在住の大道芸人ひろとさんがジャグリングを中心に盛り上げた。通常の2倍くらいあるけん玉でのパフォーマンスや工事現場などでよく見かける赤と白のカラーコーンを使ったパフォーマンスは、驚きの声と拍手を巻き起こした。ボーリングのピンを使用したジャグリングでは、来場者をステージ上へ招待し、ひろとさん持参のアルコール消毒にて念入りに手指消毒してもらい「ピンを合図と同時に私に投げてください。」と説明し、練習もかねて数回投げてもらい失敗する姿に、会場からは笑いが起きていた。最後は、光るボーリングのピンを使って高く投げ上げるジャグリングや、背面キャッチしながらジャグリングするなど多種多様なパフォーマンスで来場者を盛り上げていた。

ステージ最後は、ひろとさんがカイトさんをステージに呼び出し、二人で高速ジャグリングを披露した。1人で何個投げているか分からないスピードでジャグリングしている様子に、客席からは拍手と歓声が溢れた。曲の最後は、2人で息の合った決めのポーズが決まると大きな拍手が2人に向けられた。

パフォーマンス終了後は、事前に告知していたライブ配信視聴者を対象としたオンラインクイズを実施した。オンラインクイズの内容は、2人のパフォーマーが、高速ジャグリングの際合計何個の玉を投げていたかというクイズに、124人が参加した。当選者は幼児で後日奄美パークに取りに来ていただくよう電話連絡を行った。

最後は、御協力いただいた協賛企業と協賛品の紹介を行い、会場は大きな盛り上がりの中、終了した。

写真は、次ページ⇒

(4) 奄美パーククイズラリー・ぱーくまを探せ！

ア 期間 通年

イ 場所 奄美の郷内、田中一村記念美術館受付

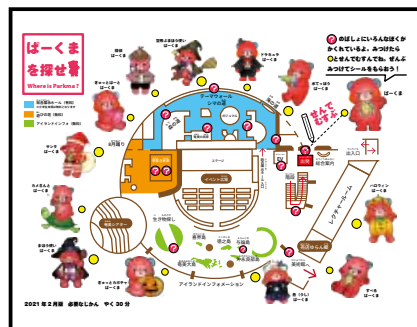
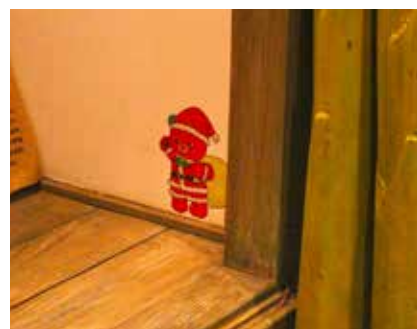
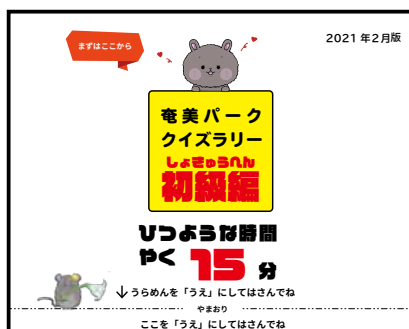
ウ 内容

展示物の解説文などからクイズを出題し、ゲーム感覚で奄美の歴史や文化等を学べる「奄美パーククイズラリー」及び未就学児が楽しみながら施設を探索できる「ぱーくまを探せ！」を実施した。

なお、クイズラリーはクイズの出題内容をケンムンに関わらず幅広い出題内容とするために「けんむんクイズラリー」の名称を今年度から「奄美パーククイズラリー」に変更した。また、上級編及び初級編の2種類の問題を作成し、より幅広い年代や時間がない方でも取り組める内容とした。「ぱーくまを探せ！」は1種類だけのイラストから様々に仮装したぱーくまのキャラクターたちに変更することで探す楽しみを追加した。

室内で実施する「奄美パーククイズラリー」と「ぱーくまを探せ！」は、天候や気温に左右されることなく気軽に楽しむことができるため、展示物をじっくり見てまわる姿が見られた。参加者には、参加賞の奄美パークオリジナルシールをプレゼントした。定期的にクイズ内容やキャラクターの配置場所を変更するとともに、シールのバリエーションも増やし、参加者が再度挑戦したいと思えるよう工夫したほか、田中一村記念美術館への誘客につなげるため美術館の受付にもクイズを設定した。

何度も挑戦する地元の子どもに混ざって、親子や観光で訪れたお客様も挑戦しており、より多くの方が奄美への関心を高めるきっかけとなった。



第4 田中一村記念美術館企画事業

1 奄美関連作家展及び招待作家展

(1) Before and After 旅するムサビ in 奄美

ア 開催日時 令和2年7月19日(日)～令和2年8月9日(日)

イ 場所 田中一村記念美術館 企画展示室

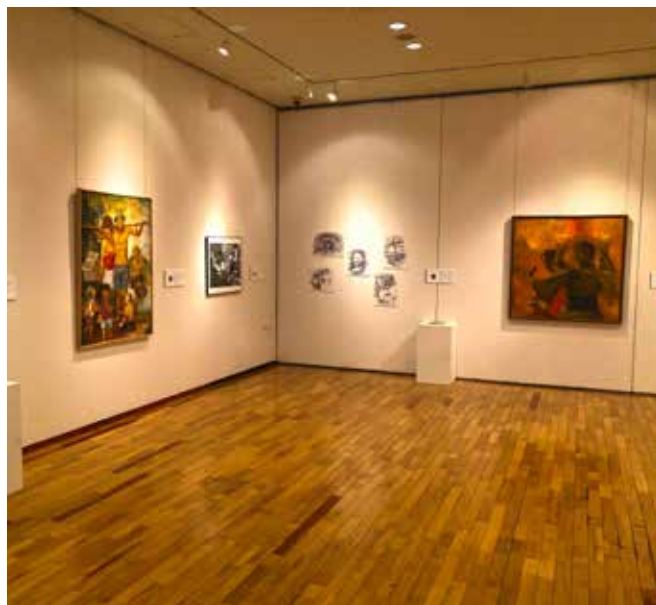
ウ 入場者数 1,589名

エ 内容

NPO法人アマミーナが主催し、武蔵野美術大学の学生やOB、大学院生、奄美を訪れたことのある学生ら17人による「奄美」をテーマに仕上げた多様な美術作品40点を展示する「Before and After 旅するムサビ in 奄美」を開催した。

また、今回の展示では、武蔵野美術大学の学生が2015年から毎年奄美を訪れ、「旅するムサビプロジェクト」として地元の子どもたちを対象とした「黒板ジャック」、「対話型鑑賞」、「公開制作」、「ワークショップ」などの様々な美術教育活動の紹介も展示した。

今回の展覧会について来館者からは、「旅するムサビに出会えた子どもたちは、本当に幸せだと思いました。」「小さい頃から環境的に本物に触れる機会は絶対に必要だと思う。感性は人それぞれ違うけど、素晴らしい企画なので継続してもらいたい。」「旅するムサビは良い取り組みだとずっと思っていました。生徒の皆さんと出会えた子どもたちの声をもっと知りたいと思いました。」等の感想を得た。



(2) 大島紬パッチワークキルト展

ア 開催日時 令和3年3月6日(土)～3月14日(日)

イ 場 所 田中一村記念美術館 企画展示室

ウ 入場者数 1,625名(ギャラリートーク 46名/講演 24名)

エ 関連イベント

(ア) ギャラリートーク 令和3年3月6日(土) 10:30～

「大島紬に魅せられて」 黒田街子 氏

(田中一村記念美術館 企画展示室)

(イ) 講演 令和3年3月14日(日) 10:00～

「日本書紀歌謡レクチャー」 佐藤溯芳 氏

(奄美の郷 レクチャールーム)

オ 内 容

国内外で活躍するキルト作家の黒田街子氏主催の大島紬を使ったパッチワークキルトの作品展を開催し、大島紬使用の大作品群と生徒らによる大島紬を使った作品 95 点を展示した。

3月6日(土)には、オープニングイベントとして、黒田街子氏によるギャラリートークを開催し、「5ミリ四方の小さな端切れでも、キルトにすれば100年後まで形に残る。大島紬を生かし、次の時代に繋いでいきたい。」などと作品への思いを語った。

3月14日(日)には、佐藤溯芳氏による日本書紀歌謡レクチャーを開催し、古事記や日本書紀の歌謡研究を披露した。

来館者からは、「大島紬の多くの工程から、端切れも無駄にせず、こんな素敵なキルトに仕上がり、値段をつけられない程の価値を感じました。どれを見ても、一針一針、大切に作られたのだろうと心が豊かになりました。」「どれもこれも素敵な作品ばかりで、息を飲む思いがしました。パッチワークの中に奄美の祖先から受け継がれた大島紬が生かされ、新しい生を受け蘇り、感謝申し上げます。」等の感想をいただいた。



2 第10回田中一村記念スケッチコンクール作品展

ア 開催日時 令和2年9月6日（日）～令和2年9月22日（火）

イ 場 所 田中一村記念美術館 企画展示室

ウ 入場者数 1,245 名

エ 内 容

奄美群島内の小・中学生を対象に奄美の自然や生活、伝統行事などをテーマにスケッチ作品を募集した。奄美群島内 80 校からの小・中学生の応募があり、1,131 点の作品の応募のうち入選、入賞した 334 点を展示した。

応募作品からは、学校での学びを活かしながら、奄美の自然、それぞれの体験や地域への思いなど、個性豊かに表現した作品が多数見られた。

9月19日（土）に開催した授賞式には、受賞した児童生徒 11 名とその家族や関係者が参加し、受賞者らは嬉しそうに賞状と記念品を受け取った。

期間中、来館者からは、「とっても生き生きとした作品が多く、子どもたちの力強さに元気をもらいました。島に生きる者として、こういうコンクールがあることを嬉しく思います。」「毎年とても楽しみにしている作品展です。子どもたちが夏休みに取り組むのにぴったりなコンクールだと思います。力作揃いで楽しめました。」「とても素晴らしい作品ばかりで感動しました。田中一村さんに負けない画家がきっと出てきてくれることでしょう。」等の感想を得た。



3 第19回奄美を描く美術展

(1) 本展 ※新型コロナウイルス感染症対策のため、例年実施している巡回展は中止とした。

ア 開催日時 令和2年10月18日(日)～令和2年11月15日(日)

イ 場 所 田中一村記念美術館 企画展示室

ウ 入場者数 4,130名

エ 内 容

本美術展は、「奄美」をテーマに全国から作品を募集し、奄美の素晴らしさを全国に発信しようと始まった「奄美を描く美術展」も、地域企業、美術愛好家など、多くの方々の御支援により、19回目を迎えることができた。

第19回展では、全国から93点(油彩・水彩・アクリル・日本画など)の素晴らしい作品が寄せられ今年度は、コロナ禍の中、一時は開催も危ぶまれたが、全国各地から熱のある作品をたくさん出品していただき、それぞれ作者の個性が際立ち力強く訴えてくる作品が多く見られた。

また、幅広い年代からの作品と、初出品の方が増えたことが特徴で、新しい視点で奄美を捉えて描かれており、厳正な審査の結果、入賞12点、入選48点の合計60点の作品を展示した。

今回、審査員長を務めた久保井博彦氏(日本美術家連盟会員)は、「新型コロナウイルスの感染拡大が社会に大きな影響を与える中で、それに負けずに頑張っていこうとする強い制作精神・情熱を感じられる作品が多く見られました。10代～30代の若い作家たちの力が入った作品も多く、今後の創作活動に期待が持てます。また、作家それぞれの個性的な特徴が見られ、どの作品も味があり強いメッセージを伝えていると感じました。これからも、この情熱で素晴らしい作品を生み出していただきたいと思います。」と評した。

来館者からは、「若い人の作品が多く、またダイナミックな絵で新鮮な感動を味わえた。」「作品構成の素晴らしさに感嘆しました。これからも素晴らしい作品展を期待いたします。」「島内外からの多くの作品が展示されており、とても楽しむことができました。末永く続いてほしい美術展です。」「奄美らしい空と海が表現されて、美しく思えました。青と緑の使い方や、荒々しい波や穏やかな波等が描かれ、自分も筆を取りたくなりました。心の中の奄美。良かったです。」等の感想をいただいた。



(2) 入選・入賞作品



第19回奄美を描く美術展大賞
「終焉と始まり」 F15 日本画
熊田 芳子（神奈川県）

まるでそこに佇んでいるかのような感覚を覚える。画面全体を覆う、ノスタルジックな雰囲気は、建物の歴史を感じさせるが、寂れたものではなく、むしろ周りの木々と優しい光が見る人の心を落ち着かせるような風景である。



田中一村記念美術館賞
「龍郷の海」 M10 油彩
中西 優多朗（京都府）

歩いていけるような奥行きと波・風・砂の音まで聞こえるような臨場感を覚える。小品ながら、その筆致の細かさ、繊細さは見る人の目を奪う。空の雲の変化、山の紫の神秘性、色の透明感など若い作者の感性に驚かされる。



優秀賞

「INNOCENT」 S15 アクリル

吉村 英彦（奄美市）

強烈な青春・情熱を感じさせる色調で、少女とアカショウビンの強いまなざしに作者の強い思いを感じることができる。構図による奥行きと色調の配置も面白い。



優秀賞

「美ら海」 F15 日本画

上田 泰徳（東京都）

俯瞰しているような風景は、奄美特有の海の碧さとリーフの特徴がよくとらえられており面白い。奥の世界と手前の世界が空間を広げており、手前には植物が細かく描かれている。



優秀賞

「時感—AMAMI」 F15 油彩
餅原 宣久（鹿児島県）

浜辺にいる人物に主体を向けていて、色調も日本画的で明るく仕上げてある。心の中に潜むそれぞれの人物の心情や個性を感じ、そのストーリーを想像させる。



優秀賞

「林苑の情感」 F15 パステル画
田中 孝林（福岡県）

対象物の形を巧妙に組み合わせた構図がたいへん面白い。動きが季節の移り変わりを表現していて、光の加減がよく、背景の黒に深みを与えている。



優秀賞

「Look around」 F15 油彩

佐藤 加奈（大島郡）

サルの味のある表現がよい。ハブやハイビスカスが躍っているような感じで、スマホから飛び出す様々なものは、情報化社会への風刺か。若い感性と情熱が素晴らしい。



佳作・奄美の海賞

「夏の終わりに」 F10 日本画

中村 哲郎（奄美市）

波とアダンの柄がマッチングしていてデザイン的にも面白い。風に吹かれてゆれるアダンの葉や波の表情によって、奄美の海の様子がよく伝わってくる。



佳作・奄美の空賞

「瑠璃色の想い」 F15 アクリル

渡瀬 俊輔（奄美市）

斬新なイメージで迫ってくる背景は、夜の海や宇宙をイメージさせる。背景の花や蝶，ルリカケスに隠れた魚群，こちらを見つめてくる女性の眼差しに惹かれ，様々な想像を掻き立てられる。



佳作・奄美の杜賞

「夏の終わりに」 S15 油彩

平 芳子（奄美市）

浜木綿の形を追いかけて様々な表情があり，ハーフトーンで，背景の色調に面白さを感じる。落ち着いた感じの作品であるが，画面にメリハリがある。



ヤング賞

「神使」

F10 油彩

中山 鈴香（大島郡）

カメのやさしさとハブの強さ，まさに奄美！といった力強さを感じる。周りの花や虫たちが，神々しさを与えており，神秘的でもある。若いながら構図もしっかりとしている。



シルバー賞

「花の島沖永良部から」

S15 水彩

丸山 良二郎（鹿児島県）

凜とした美しさが醸し出された作品でよく観察して描かれている。それぞれの花一つ一つに表情の変化があり，背景の色調も素晴らしい。丁寧な筆遣いの作品である。

審査総評

今年度は，新型コロナウイルスの感染拡大が社会に大きな影響を与える中で，それに負けずに頑張っていこうとする強い制作精神・情熱を感じられる作品が多く見られました。10～30代の若い作家たちの力の入った作品も多く，今後の創作活動に期待が持てます。また，作家それぞれの個性的な特徴が見られ，どの作品も味があり強いメッセージを伝えていると感じました。8号から15号と小品ではありますが，毎年質の高い良い絵が集まっていますので，審査は非常に難航しました。これからも，この情熱で素晴らしい作品を生み出して頂きたいと思います。

審査員長 久保井 博彦（日本美術家連盟会員）

4 龍郷町立小・中学校図画工作・美術科学習発表展

ア 開催日時 令和2年11月22日(日)～12月6日(日)

イ 場 所 田中一村記念美術館 企画展示室

ウ 入場者数 1,984名

エ 内 容

児童・生徒の創作活動への興味・関心・意欲を高め、美術館を身近に感じてもらうとともに、保護者や地域住民に学校の学習内容や児童・生徒の様子を理解していただき、指導内容等についての情報交換の場となることを目的に、龍郷町立の小学校7校と中学校3校の児童・生徒が授業で制作した絵画・立体などの作品582点を展示した。

多くの方が来館し、学校での指導、子どもたちの豊かな発想について語り合う姿が見られた。

来館者からは、「若い人の作品を見るのはとても楽しかったです。デザインはもちろん、タイトルにもその人の感じたものが出ていて、とてもおもしろかったです。」「子どもたちのありのままに表現している様子に心が洗われた。大人になっても自分の描きたいものを描いてもいいんだとそんな気持ちになりました。」「どの作品も丁寧に作られていて素晴らしかった。子どもたちの柔軟な発想が面白くて見ていて飽きなかった。小中学生に知り合いがいなくなり、子どもたちの作品を見る機会がなくなっていたので、このような企画はすごくありがたいです。大学の授業の参考になりました。」等の感想をいただいた。



5 創作体験教室ほか

(1) 夏休み子どもワークショップ 万華鏡をつくろう

ア 開催日時 令和2年7月26日(日) 10:00～11:30

イ 場 所 奄美の郷 屋内イベント広場

ウ 参加者数 29名

エ 内 容

奄美の郷屋内イベント広場において、当館学芸専門員を講師として「夏休み子どもワークショップ 万華鏡をつくろう」を開催した。今回3回目の実施となる万華鏡づくりには、定員の小・中学生15名とその保護者が参加した。

まず初めに、それぞれのテーブルごとに自己紹介を行ってから万華鏡の作成を始めた。

万華鏡の作成には、はさみを使用する工程があるため、参加者には各自はさみを準備してもらい、低学年の子どもたちがはさみを使用する際には、保護者と一緒に工作を行ってもらった。参加者は、講師の説明を聞きながら楽しく万華鏡づくりを行った。

万華鏡に入れるビーズの種類や量によって模様が変化するため、何を入れるかを親子で相談しながら楽しそうに作成する場面などが見られた。また、それぞれに完成すると、子どもたちは手作業の魅力を味わいながら万華鏡をのぞき込んで、色鮮やかに輝く光の世界に目を輝かせている姿が見られた。

参加者からは、「難しい工程もあったけど楽しく作れた。万華鏡の中は、三つ葉のクローバーみたいできれい。」「蝶や動物の素材をたくさん入れた。きれいにできた。」等の感想を得た。

自分で美しい模様を作り出す万華鏡を作成することで、親子や友人同士で協力しながら創作活動を楽しめるワークショップとなり、夏休みの思い出となった。



(2) 夏休み親子「草木染め体験」

ア 開催日時 令和2年8月23日(日) 10:00～15:00

イ 場所 奄美の郷 屋内イベント広場及び屋外管理棟

ウ 参加者数 24名

エ 内容

奄美市笠利町で「工房しまむたび」の植田正輝氏を講師に招き、夏休み親子「草木染め体験」を開催した。

参加者は、まず初めに奄美の郷屋内イベント広場にて、自然の素材を生かした染色技法を学んだ後、屋外に移動し、奄美パーク内で採取したフクギの葉や枝を2時間ほど煮出して染料を作った。フクギの染料を煮出している間に屋内イベント広場に戻り、草木染めするTシャツなどを思い思いの模様になるよう考えながら紐で縛る作業を行った。その後、再び屋外管理棟へ移動して染めの活動に取り組んだ。フクギから抽出した染料を繊維に定着させる媒染という工程を繰り返すことで色素の染色濃度が上がり、Tシャツなどは鮮やかな黄色に染め上がった。用意していた藍とフクギ両方の染料を使って、2色の模様を入れる参加者も見られた。

参加者からは、「洋服に色を付けるのが楽しかった。染めたTシャツは友達と遊ぶときに着たい。」「思った通りには染められなかったので、もう一回やってみたい。」「草木染めは初めて。子どもたちが奄美ならではの体験をさせられてよかった。」等の感想を得た。

身近な植物の葉や茎などの自然の素材を使い、煮詰め、染め、媒染までの各工程を親子で体験しながら草木染めの魅力を体感していただいた。



(3) 子ども美術館「バックヤードツアー＆鑑賞会」

ア 開催日時 令和2年11月3日（火・祝日）10:00～11:20（80分）

14:00～15:20（80分）

イ 場 所 田中一村記念美術館

ウ 参加者数 午前の部…5家族 17名／午後の部…3家族 8名（計25名）

エ 内 容

文化の日に合わせて、小・中学生とその保護者を対象とした「子ども美術館バックヤードツアー＆鑑賞会」を開催した。

本プログラムは、「第1部 美術館の役割について」「第2部 美術館の施設について」「第3部 美術館の施設の維持管理等について」「第4部 田中一村と作品について」の4部構成で行った。

第1部では、当館学芸専門員より、美術館の役割や施設の機能について説明した。

第2部では、学芸員室、荷揚げ場、機械室、電気室、収蔵庫など、普段は見ることができない美術館の裏側を見学して回り、美術館を運営するために必要な施設の説明を行った。

第3部では、美術館の施設の維持管理について、発電機や消防設備について説明した。

第4部では、田中一村作品鑑賞のために展示室に移り、東京・千葉・奄美時代の作品を参加者それぞれの見方、感じ方を大切にしながら、対話形式で鑑賞していただいた。

参加者からは、「普段入ることができない美術館の裏側を見られてよかった。」「丁寧に一つ一つ説明していただき、美術館で働いていらっしゃる方の仕事内容も分かりおもしろかったです。」「途中で画風が変わったとは知りませんでした。じっくり絵を観ることができ勉強になりました。」等の感想をいただいた。



(4) 創作体験教室 日本画講座「奄美を描こう」

ア 開催日時 令和2年11月8日(日) 10:00～15:00

イ 場 所 奄美の郷 レクチャールーム

ウ 参加者数 13名

エ 内 容

当美術館初代学芸専門員で、現在鹿児島県立川辺高等学校にて非常勤講師として勤務している西村康博氏を講師に招き、日本画の創作体験教室を開催した。

参加者は墨や日本画用の水彩絵具を使い、季節の野菜や果物、植物をテーマにそれぞれの作品制作に挑戦した。講座では講師が、田中一村作品の資料を基に日本画の特徴や制作の手順を説明した後、参加者は野菜や植物などの題材を決め、最初に構図を取り、木炭等でアタリをとる作業(線を描き、大まかな位置決めをする下描き作業)を行った。その後、墨で下描きをし、日本画用の水彩絵具を使って作品を作成した。途中、講師が参加者の作品を見て回り、構図や形の捉え方、彩色についてアドバイスを行った。参加者は、講師のアドバイスを参考に作品を完成させた。

最後に、完成した作品に講師が講評を行い、互いの作品を鑑賞し合った。

講師からは、「想像ではなく、実物をよく見て線や色を描くことが大事。想像で生きた線は描けない。細かい変化に気付く感性を大切に。」「植物の葉は、葉脈の中心に向かって筆を運ぶと良い。」等のアドバイスがあった。

参加者からは、「初めて日本画を描かせてもらって色を付けたり、構図も難しかったですが、とても楽しかったです。他の方の絵も色がとても綺麗で、日本画の美しさを少し感じることができました。」「色々な人と作品を見て、自分の作品と比較できたりして、楽しさが何倍にもなりました。絵をもっと描いてみたくなりました。」等の感想をいただいた。

参加者全員が熱心に創作活動に取り組み、「今後も時間を見つけて描いてみたい」、「次回も是非参加したい」等の声も聞かれた。



(5) 創作体験教室「人物画講座」

ア 開催日時 令和3年2月27日(土) 10:00～15:00

令和3年2月28日(日) 10:00～15:00

イ 場 所 田中一村記念美術館 企画展示室

ウ 参加者数 1日目…12名, 2日目…12名

エ 内 容

西健吉氏(公益社団法人二科会常務理事)を講師に招き,創作体験教室「人物画講座」を開催した。モデルは,龍郷町在住の方に2日間依頼した。

1日目は,モデルに立ち,座り,寝そべるなどのポーズをとってもらい5分間のクロッキーを4セット行った。その後,固定ポーズで15分間描く工程を繰り返し行った。

途中,講師が参加者の作品を見て回り,構図の取り方,明暗のつけ方について助言をし,参加者は,講師の助言を参考に制作に励んだ。

2日目は前日同様,5分間のクロッキーを4セットと,固定ポーズを15分間描く行程で行った。

参加者はモデルの特徴を捉え,鉛筆や木炭,水彩等で前日の講師の助言を生かしながら人物画の制作に取り組んだ。特に2日目には,積極的に講師から絵に対する助言を受け,それぞれに個性があふれる作品を制作した。

両日とも最後に,制作した作品一点一点について講師が講評を行った。最終日の講評で,「建築物と人物の描き方は同じ。人物に限らず画の構築は同じというように考える。土台,基礎工事が大事。繰り返し描くことで慣れてくる。遠くから描くとあいまいになるので,次回はできるだけモデルに近づいて探るように見て描いてください。」と呼びかけ,参加者は熱心に耳を傾け,時には質問をしながら互いの作品を鑑賞した。

参加者からは,「西先生の講座を毎年楽しみにしている。年に一回ではなくもう少し講座の回数を増やしてほしい。」「先生に助言をいただけるのは贅沢でめったにない機会。楽しめました。」「人物を描ける機会が少ないので良い経験になった。」等の感想を得た。



6 その他自主企画事業

(1) 一村キッズクラブ

ア 清掃活動

(ア) 開催日時 令和2年8月29日(土) 7:00～9:00

(イ) 場 所 田中一村終焉の家

(ウ) 参加者数 19名

(エ) 内 容

奄美の自然を描き日本画の新境地を拓いた田中一村を偲び、学ぶ場所として「田中一村終焉の家」を奄美の児童・生徒が大切にする事で、文化芸術や郷土を愛する心を育んでもらうことを目的に「一村キッズクラブ」を発足し、田中一村の命日(昭和52年9月11日)の前に第1回目の活動を行った。

初回の活動は、奄美市名瀬有屋町の田中一村終焉の家にて清掃作業を行い、参加者は汗を流した。奄美大島の児童・生徒及び先生方、奄美一村会の方など合わせて19名が参加し、周辺道路や敷地内の除草、トイレ清掃などに取り組んでいただいた。

活動を終え、参加者からは、「自然いっぱいの家で、学校ではできないことも学べた。」「一村さんの家に来たのは初めて。絵を描く者としていい経験になった。」「活動を通して学ぶ一村さんのことを身近な人にも伝えたい。」等の感想を得た。

国内外で評価の高い日本画家田中一村。田中一村終焉の家には多くの観光客も多く訪れることから、一村キッズクラブの活動を通して、奄美の児童・生徒には一村をもっと深く学んでいただき、今後も田中一村終焉の家を守る活動を続けていくことを期待したい。



イ 慰霊祭

(ア) 開催日時 令和2年9月13日(日) 7:00～8:00

(イ) 場 所 田中一村終焉の家

(ウ) 参加者数 10名

(エ) 内 容

晩年を奄美で過ごした孤高の日本画家田中一村の命日に当たる9月11日に田中一村終焉の家にて「一村忌」が行われ、後日(9月13日)、一村キッズクラブの参加者で終焉の家周りの清掃と慰霊祭を行った。

清掃活動後、当館学芸専門員より田中一村の生涯について解説を行い、参加した生徒は熱心に耳を傾け、田中一村の生き方や作品への理解を深めた。

そして、参加した生徒に一村さんへ手紙を書いていただき、終焉の家の縁側に設けた一村の遺影と祭壇にソテツの葉と手紙をささげて冥福を祈った。

一村キッズクラブの活動を通して、一村の絵から伝わる情熱や己を貫き通す生き方など、絵にかける熱量を子どもたちに感じてもらい、田中一村の功績を次代に伝えていきたい。



ウ スケッチ活動

(ア) 開催日時 令和2年11月15日(日) 8:30～10:00

(イ) 場 所 田中一村終焉の家

(ウ) 参加者数 6名

(エ) 内 容

今回、4回目となる一村キッズクラブ活動は、参加者で田中一村終焉の家周りの清掃活動後、当館学芸専門員の指導を受けながらスケッチ活動を行った。

まず初めに当館学芸専門員よりスケッチをする際の鉛筆の持ち方から指導を受け、アタリをとる作業(線を描き、大まかな位置決めをする下描き作業)を行った。参加者は指導を受けながら、植物をテーマにそれぞれスケッチを始め、下描きが終わると当館学芸専門員から、「葉の種類によって筆の運び方を変える。一色だけ色を使うのではなく、細かいところまで観察して色を選ぶ。」等のアドバイスを受け、参加者は耳を傾けながら絵の具で丁寧に色づけをして制作に励んだ。

参加者からは、「ゴムの木の葉っぱをスケッチし、光の加減や色使いにも注意して描いた。一村さんの絵が好きで、田中一村記念美術館にも行ったり、絵画コンクールにも出品している。将来は一村さんのような絵描きになりたい。」等の感想があった。



エ 絵手紙を描こう

(ア) 開催日時 令和3年1月17日(日) 8:30～10:00

(イ) 場 所 田中一村終焉の家

(ウ) 参加者数 7名

(エ) 内 容

今回、6回目となる一村キッズクラブ活動は、田中一村終焉の家屋内の清掃活動後、参加者は当館学芸専門員の指導を受けながら絵手紙を描く活動を行った。

まず初めに当館学芸専門員より田中一村作品を参考にしながら、墨で絵を描く際の筆の持ち方、線の描き方の指導を受けながら参加者は思い思いの絵を描いた。

また当館学芸専門員から、「上手に描こうと思わず、気持ちを込めて描きましょう。色を塗る際も余白も生かしながら、いろんな色を使って描こう。」等のアドバイスを受け、参加者は耳を傾けながら絵の具で丁寧に色づけをして制作に励んだ。

参加者からは、「初めて絵手紙を描いた。おじいちゃんに送りたい。」「墨で絵を描くのは初めて。上手に描けて良かった。」等の感想があった。



オ 歩こう会

(ア) 開催日時 令和3年2月21日(日) 8:30～10:30

(イ) 場 所 田中一村終焉の家、大熊漁港

(ウ) 参加者数 9名

(エ) 内 容

今回、7回目となる一村キッズクラブ活動は、「田中一村の散歩道を歩こう」という内容で、田中一村終焉の家の清掃活動後、一村ゆかりの地である大熊漁港までゴミ拾いをしながら散策した。道中、当館学芸専門員より田中一村ゆかりの地にて解説も行い、参加者は一村について理解を深めた。

大熊漁港到着後、一村が風景を描いたり、散歩で訪れた大熊集落で目の前に広がる海や山など当館学芸専門員の指導を受けながら、参加者は奄美の自然を描いた。

参加者からは、「疲れたけど、楽しかった。」「絵を描くのが好きなので、また参加したい。」等の感想があった。



(2) 田中一村記念美術館 4 コマ劇場

ア 目的

「田中一村記念美術館 4 コマ漫画配信」は、田中一村の作品や人生について、興味関心をもってもらうため、田中一村を知らない児童・生徒を対象に、4 コマ漫画をSNS等で配信し、興味関心を持ってもらうとともに、田中一村の新たなファン獲得や田中一村記念美術館への誘客促進を図ることを目的とする。

イ 事業主体

鹿児島県奄美パーク 田中一村記念美術館

ウ 開始日・掲載回数

令和2年8月8日(土)～

美術館HP・しーまブログ・Facebook・Instagram・Twitterにて公開

※令和2年度末時点で27話まで配信中(全50～60話予定)

エ 内容

物知りで絵も上手な少年「奄村 描」^{あまむら かける}と奄美大島きよらむん代表「奄 美郷」^{あま みさと}の二人が、田中一村の生い立ちや作品、美術館の行事などを紹介する。



第5 奄美パーク応援隊

1 結成目的

奄美パークの活動を支援し、魅力ある施設実現の一助とし、ひいては奄美群島の観光振興に寄与することを目的とする。

2 隊員数 44名（令和3年3月31日現在）

3 延べ年間活動実績人数 123名（六調三線 17回・園芸作業 12回）

4 活動内容

奄美パーク応援隊は、施設内のガイドを目的に平成15年度に発足した。

平成18年度には、展示案内ガイド・手熟ガイド・園芸サポーター・一村サポーターと、4つの分科会を設けたが、それぞれの活動頻度が異なり分科会によっては、活動実績がない状況にあったため、再度、活動のあり方を見直した結果、平成26年度より分科会を廃止し、展示案内・手熟（三味線やシマ唄等）の披露・園芸活動・美術館活動・その他活動（奄美パークが企画したイベント、業務等への参加、園内の清掃）と、5つの活動内容で構成し、隊員はそれぞれ得意な分野や興味のある分野を中心に参加することとなった。

隊員には登録証を発行し、ボランティア活動保険への加入と、原則、年に2回以上の活動をお願いしている。登録証は応援隊の活動時以外でも、提示することで奄美パークの有料ゾーンに入ることのできるフリーパスにもなっている。

なお、事務局は月に一度、活動の予定や奄美パークの行事予定、活動報告などを掲載した「応援隊通信」を発行し、すべての隊員へ配付している。

5 活動実績

今年度は、新規隊員が4名、昨年度から引き続き更新のあった隊員が40名、計44名の加入申し込みがあった。それぞれ園芸作業や六調三線など得意な分野や興味のあることに参加した。

手熟の披露は、隊員がそれぞれの都合で来園し、あしびの庭でシマ唄や三味線の弾き方、チゼンの叩き方などを来園者へ披露した。「勉強になった。」「面白かった。」など好評を得ていた。

園芸作業は、月に1回の作業日を設け、2階テラスの花壇を中心に手入れを行った。花壇に植えた花苗は、季節に合ったものを購入したり、隊員から頂いたりしたものであった。色とりどりの花々が咲き乱れた花壇では、来園者がカメラを片手に散策する様子がみられた。

その他、月2回の六調三線の練習も続けられ、その成果を披露する機会となる団体客の見送りは高い評価を得ていた。団体客が隊員と一緒に踊ったり、カメラを構えたりする様子なども見られた。

奄美パーク応援隊募集

奄美パークでは、奄美パークの発展に貢献していただくボランティアスタッフ「奄美パーク応援隊」を募集しています。活動内容は、展示案内・手熟（三味線やシマ唄等）の披露・園芸活動・美術館活動・その他活動（奄美パークが企画したイベント、業務等への参加、園内の清掃）と、5つの活動内容で構成し、隊員はそれぞれ得意な分野や興味のある分野を中心に参加することとなります。

登録証は応援隊の活動時以外でも、提示することで奄美パークの有料ゾーンに入ることのできるフリーパスにもなっています。

なお、事務局は月に一度、活動の予定や奄美パークの行事予定、活動報告などを掲載した「応援隊通信」を発行し、すべての隊員へ配付している。

お問い合わせは「奄美パーク 事務局」まで

鹿児島県 奄美市 奄美パーク 事務局
〒996-5504 奄美市奄美町利根田1634
TEL 0997-55-2333 FAX 0997-55-2612
HP <http://www.amamipark.com/>
E-MAIL info@amamipark.com



鹿児島県奄美パーク 令和2年度事業報告書

2020 LEAF 第19号

〔発行日〕 2021年5月発行

〔編集・発行〕 奄美群島広域事務組合

鹿児島県奄美市笠利町節田 1834

電話 0997-55-2333 FAX 0997-55-2612

公式サイト <http://amamipark.com/>

公式ブログ <https://apl29.amamin.jp/>